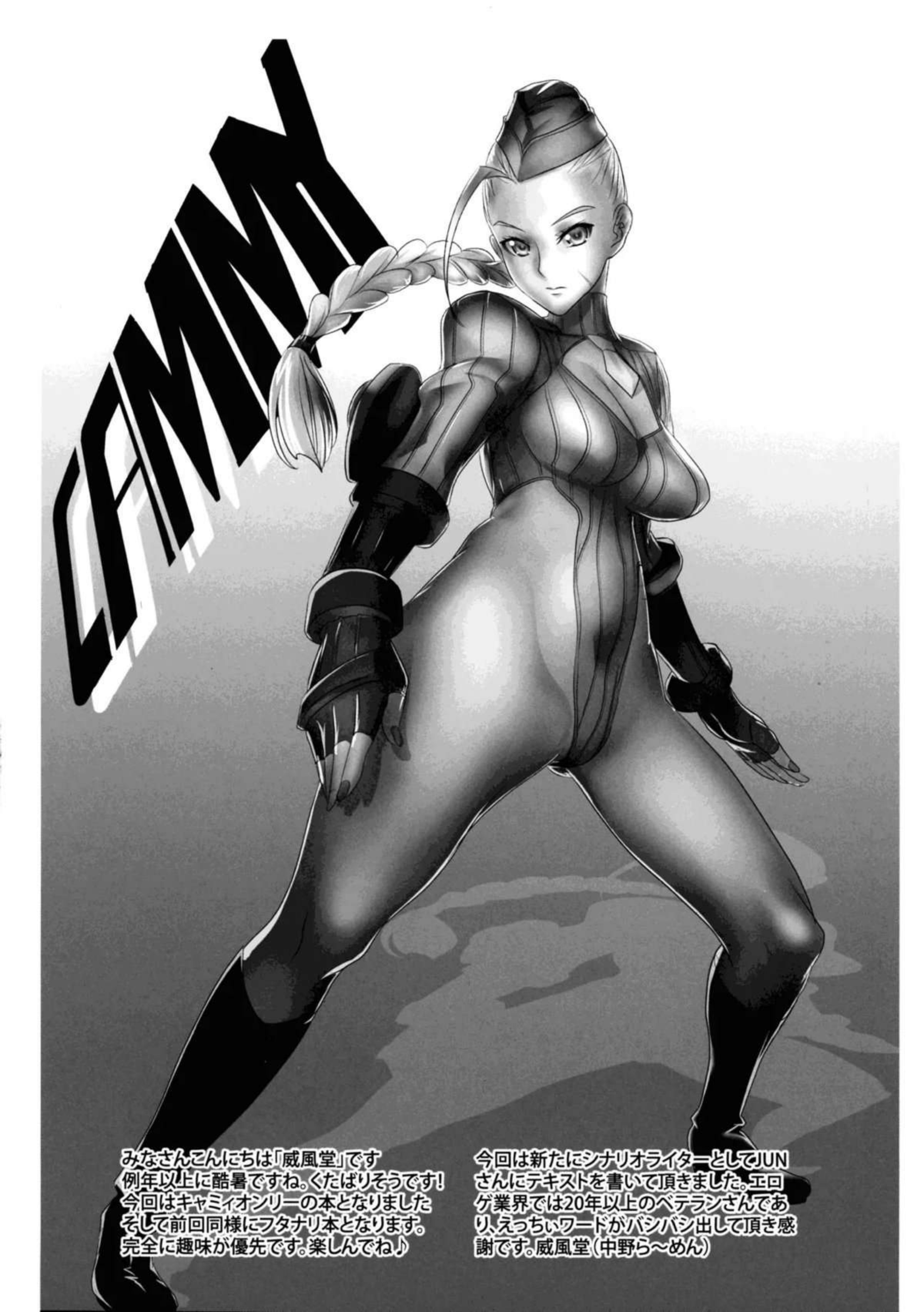
18
キャミちゃん
HIGH
GRADE
DOLLS
STREET FIGHTER CAMMY ONLY BOOK

キャベちゃん
HIGH GRADE DOLLS
3



みなさんこんにちは「威風堂」です
例年以上に酷暑ですね。くたばりそうです!
今回はキャミィオンリーの本となりました
そして前回同様にフタナリ本となります。
完全に趣味が優先です。楽しんでね♪

今回は新たにシナリオライターとしてJUN
さんにテキストを書いて頂きました。エロ
ゲ業界では20年以上のベテランさんであ
り、えっちぃワードがバシバシ出して頂き感
謝です。威風堂(中野ら〜めん)

あやうしキャミィ

26年目の復讐

文：JUN・中野ら～めん　画：たまつやだ

「くう……お前たち、一体、私をどうするつもりだっ……」

「ターゲット股間に変化あり」

「計測：体温上昇中」

「ばっ、バカ、触るなっ！」

必死に暴れるキャミィの事などかまいもせず、ユーリとユーニは彼女の体を弄りながら、その変化を確かめていく。

（くうう……いきなり拉致されたと思ったら『フタナール』とかいう、おかしな薬を飲まされて……ああ、こんな……）

キャミィは己の体に生えた、おぞましい男性器を直視出来ずにいた。しかし、ユーニの指が、そこにツツッと先端に触れただけで、なんともいえない感覚が昇ってくる。

「感度・良好」

「作戦を実行します」

薬のせいか、だんだんと頭がぼんやりとしてくる。大きな声をだしていないと、キャミィは自分を保っていられそうもなかった。

二人の体にも、キャミィと同じモノが生えている。おそらく彼女たちも事前に、同じ薬を服用したのだろう。無駄とわかっていても、キャミィは彼女達を問い詰める。あっさりと答えは返って来た。

「目的・新たなるシャドルーを結成」

「しゃ、シャドルーだと……？」

思い当たることはあった。

「お前たち、ベガの復活に気づいたのだな、それで私を仲間に引き入れようと……くふう、あぁっ」

二人同時に、豊満なキャミィの乳房に被りつく。乳首を舐められ、コロコロ転がされ、彼女は甘い声をあげてしまう。

「こ、こんな、いやぁ……あっ、あぁあんっ♡」

ただ舐められているだけのなのに、信じられないほどの気持ちよさに襲われる。同時に男性器も擦られて、何も考えられなくなってくる。

「だめ、イヤぁ、そこは……
やめろっ、くううっ」
二人の舌が今度は男性器の
方へと伸びていく。まるで奪
い合うように、激しいフェラ
が開始される。
「ちゅる♥♥じゅるっ♥ちゅ
ぱ、ちゅぱ♥」
「じゅるるっ♥♥ちゅる、
れろれろぉ♥」
「ふぁあっ♥あんっ、だめぇ、
やぁぁん♥♥」
キャミィの腰は、勝手に動い
てしまう。今までに感じた
ことのない快感が襲ってき
た。
「くう……♥我慢できない、
どうしてぇ……♥♥」
「薬による変化」
「感度・さらに上昇」
「ふああう♥そ、そんなぁ…
…私が、こんなぁ♥♥」
抗おうとすればするほどが
っしり捕まれ、執拗に愛撫
される。電撃でも浴びたよ
うに、股間がビリビリして
くる。
「あっ、ああんっ♥もぉ、お
かしくなるぅ♥♥」

グイッと股を広げさせられ、恥ずかしい姿勢にさせられると、愛撫ですっかり湿っていたオマンコを指でかき混ぜられる。
「あっ♡あぁあっ～～♡」
声を抑えることなど最早、出来なかった。ずっとそうされるのを待っていたかのように身体が震える。
そんなキャミィに休む間を与えず、ユーニが覆いかぶさり、口の中に男性器をグイッと突っ込んでくる。
「ふぐっ！んぐっ、ぐううう♡♡♡」
吐き出そうとすると、更に奥まで押し込まれてしまい、どうにもできない。
（だめだ、オマンコだけじゃない、私のオチンチンまで、そんなに触られたら……ああ♡身体が熱くて変になりそうだ♡）
二人からの激しい責めに、キャミィは成す術もなかった。

絶え間なく訪れる快感。その気持ち良さにキャミィは流されつつあった。
『ターゲット戦意喪失、次の段階に移る』
『っ、次って、何を……あっ、あああっ！』
キャミィの身体にズブリと男性器が挿入される。愛液ですっかり濡れ濡れになっていたオマンコは、それをあっさり受け入れてしまった。
『あぁん……だめぇえっ、それだけは……だめぇえ♡』
連動するように、キャミィの男性器も固くそそり勃ち、先端から汁が滴り落ちる。
『ううっ、オチンチンが、はぁはぁ、熱いっ♡』
初めての快感に戸惑うキャミィの目の前に突き出された、ユーニの男性器。何故かそれを無我夢中で頬張った。身体がそうすることを求めていた。
『んじゅっ、ちゅる……くちゅ、じゅぶじゅぶっ』

それくらいでは、キャミィの熱は治まってくれない。ユーリがお尻をこちらに突き出してくると、誘われるがままにそこに男性器を突き刺した。

「んはっ……♡♡あんっ、オマンコの中がこんなに気持ちいいなんて♡んんっ、きゃああっ！」

浸っている間もなく、今度はユーニにバックから入れられる。

「そ、そんなに激しく、打ち付けられたら……♡♡んはっ、お、奥にあたるううっ♡♡」

「フッ、フッ、フッ、フンッ！」

ユーニの息遣いが荒い。

「はぁ、はぁ、はぁっ、あんっ、あんっ」

ユーリも甘い喘ぎをもらしている。戦闘人形として、ほとんど自我がなく見える二人も、今は完全に快楽に翻弄されていた。

パンパンッ、と淫らなピストン音が部屋に響き渡る。キャミィはだらしなく開口していた。
「あはぁん♥あぁんっ♥なんでこんなに感じてしまうのか……んくっ、くううん」
勝手に膣が閉まり、相手のものを逃がさないと締め付ける。ユーリの男性器がビクビクと震えた。
「はぁはぁ……まもなく、射精します」
「えっ……ちょっ、そんなに強くしたら、んあっ♥ご、ごわれるうううっ♥」
その動きにキャミィの男性器も、ユーリの中ではちきれそうなくらい大きくなっていた。
「状態・射精寸前」
「くそ……このままだと、くはぁ、もぉ、だめっ、イク、イグ、いくうううっ♥♥」
オマンコに精液を注ぎ込まれるのと同時に、キャミィも果てた。
「あぎゅうううっ〜?あぁん、出てる……オチンチンから、出てる……あひぃい♥」

その後も、キャミィを中心とした彼女達の狂乱の宴は続いた……。

「あひいい、オチンチンもっとお、もっとちょうだい♥」

キャミィはすっかり薬漬けの快楽の虜になっていた。

「症状・淫乱、セックス中毒」

「ターゲット攻略成功……更なる依存度を上げる為、作戦続行」

「あへえ、まだしてくれるのか……だったら早く、早くオチンチンちょうだい♥」

だらしなく涎をたらしながら、キャミィはおねだりをする。男性器は勃起しっぱなし、オマンコからは大量の精液があふれ出していた。

「子宮とお、オチンチン……両方いっぱい、気持ちよくなりたいのお♥」

焦らされるのが我慢できず、手を伸ばすキャミィ……二本の男性器は、何度射精したはずなのに未だにギンギンに勃っていた。

「セックス、いい♥……セックスしゅきい♥だいしゅきい……♥♥♥」

●じゃっじ先生の
お絵かきコーナー

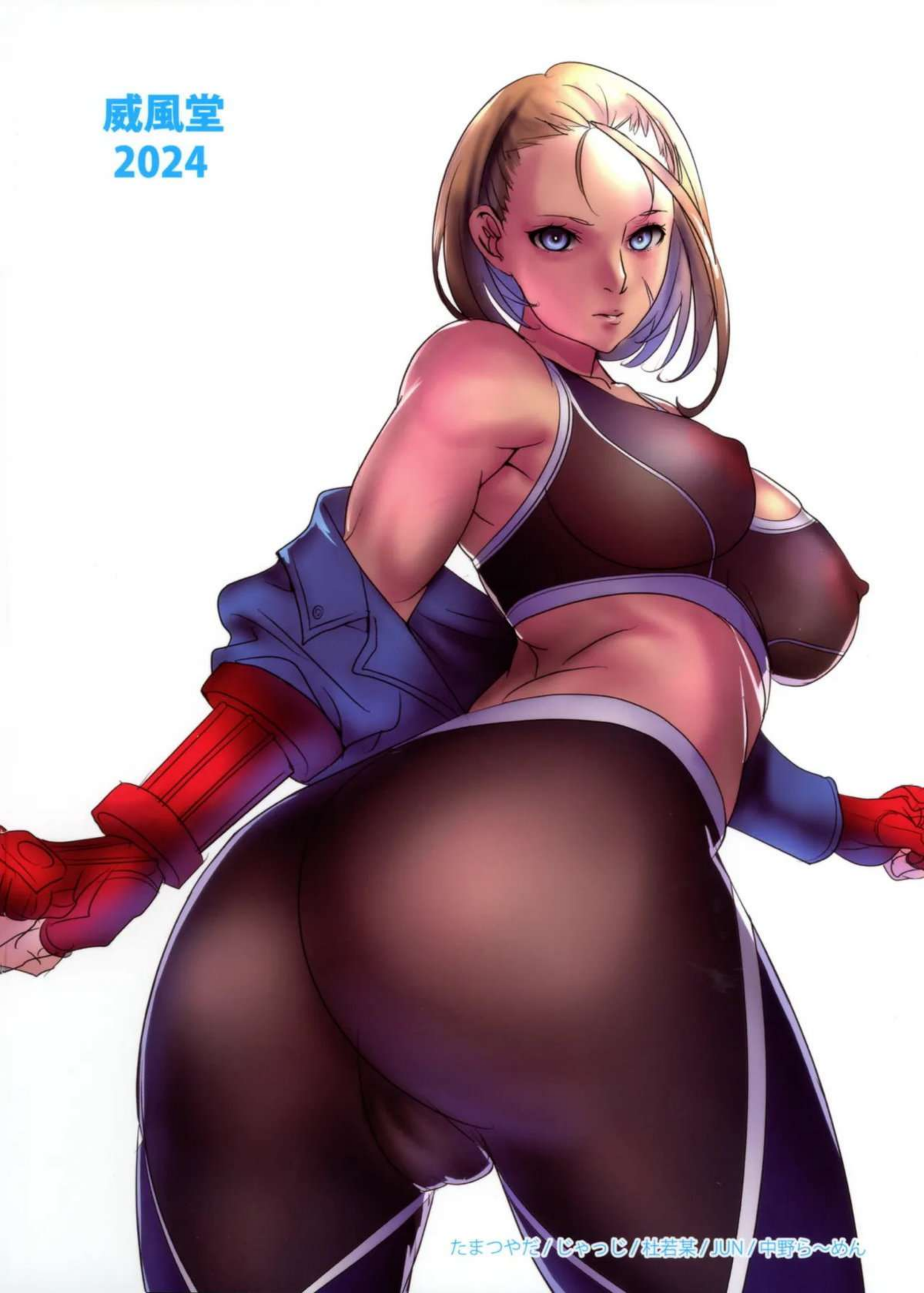
じゃっじ先生からコメントを貰おうと連絡しましたが、いつものように逃げられました。
コメントがもらえる日が来るのでしょうか…

キャミィと言えば
三ツ編みだった
のがスト6では
見事にばっさり…。
イメージ的にはやっぱ
スト2のレオタードに
大股開きが染みついてる
んだよな
杜

STREET FIGHTER 6
それでは次回もゲーセンでお会いしましょう

※今回未収録のカットはシナリオ追加+カラー化した電子版にて追加収録予定です。

・キャミちん・
発行日：2024年8月12日（C104）
発行：威風堂
印刷：JC2 TAIYAKI
mail：nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・
本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。
上述の行為を発見・報告時には速やかに法的処理を致します。
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。

威風堂
2024